

シルキィ先生 「古文とアート思考」

「徒然草」×大原美術館×オリエント美術館



小学生が「あっと」いう授業をしたい、という真壁奈々葉さん(3年生)の探究がきっかけである。2年前にお会いしたVRの(株)Loopさんのことを思い出し、連絡をとった。

授業者(絹田昌代)の授業への思い

①コロナ禍でも学びを止めない！

オンラインならリアルより楽しくなくっちゃ面白くない

②自分の考えや感性を形成する授業をしたい

一方的に情報を流すのではなく、受け取ってしっかり思考し言語活動として表現する。その際、既習の「徒然草」での学びを使いながら感性を開いていく学びの実感をもたせたい。(新学習指導要領の国語の言語活動への対応も)

③「一生モノの授業」にしたい

美意識は生きる軸になると考え、折に触れて「美意識の授業」を実践してきた。ここで考えたり感じたりしたオリジナルの感覚は、答えがないため誰とも比較することなく、発言できる。また、その言葉こそが人生の宝物になると考える。

④本校の探究の特技「越境」をオンデマンド授業でも活かしたい

外部の大原美術館やオリエント美術館とコラボしながら授業でも「越境」する学びを届けたい。



授業内容

古文とアート思考生徒は『徒然草』
「花は盛りに月は隈なきをのみ見るものかは」
の段における「月」の美を「知識構成型ジグソー法」授業で対話によって読み取っている。



このビデオでは、読み取った美の見方や感じ方を使いながら、「月」が表れた美術作品を他者との対話ではなくその生徒一人の感性で鑑賞し、オリジナルの「題」や「短いストーリー」によって言葉で表現させることによって、自身の見方や感じ方を養わせている。

その際、「シルキィ先生」(バーチャル絹田)というキャラクターによる動画を作成することによって、普段とは異なるゆったりした雰囲気、何度も見返したり、止めたりして生徒個人個人のペースで学べる教材にした。



使用させていただいた美術作品の画像

○大原美術館

クロード・モネ《睡蓮》

ジョアン・ミロ《夜のなかの女たち》

ギュスターブ・モロー《雅歌》以上

○岡山市立オリエント美術館

メソポタミア時代の12星座の壺

○愛知県美術館

浦上玉堂「酔雲醒月」

